

《研修レポート》

平成19年度 新規採用職員研修を受講して

大洲河川国道事務所

工務第一課 山岡摩耶

本局での入局式を終え、平成19年4月2日から8日間、新規採用職員研修がスタートしました。バスの中では、初めて会った同期職員との会話に少し緊張がほぐれ、これから始まる社会人としての生活の第一歩に期待を持ちながら研修所へと向かったことを憶えています。



研修は、朝7時半のラジオ体操とともにスタートし、公務員の使命と心構えや人権問題、四国地方整備局の持つビジョンなどの講話、電話応対を交えたマナー講習などを受講しました。講話は、仕事に対する責任感を重く感じる内容が多く、身の引き締まる思いがしました。電話応対においても、自分の気持ちとは裏腹になかなか言葉が出てこず、相手の立場に立った応対の難しさを感じました。また、研修所を出て高知県嶺北周辺における間伐や排水機場やトンネル工事などの現場見学、国営讃岐まんのう公園での接客などを経験させていただいたり、次長や企画部長をはじめ先輩方々に多くの懇親会を開いていただきました。

こうした研修などを受講する中で、最も印象に残っている言葉の一つに、「素直に感じることを忘れないでほしい」という言葉があります。今後、多くの人々と関わり、様々な仕事などに携わっていく中で、素直に相手の話を聴き、成功を喜び、美しいものを美しいと感動してほしい。私もそうありたいと感じました。また、何のために仕事をしているのか、本当の意味を忘れずにいたいと思いました。仕事は堤防や道路を作ることが目的ではなく、それによって人々の命や財産を守ること、人々が快適に過ごせることが目的であり、またこうした人々の姿を思い浮かべながら仕事に取り組んでいきたいと感じました。

そして、一緒に受講した同期職員との出会いは、本当にかげがえのないものになりました。年齢はバラバラでしたが、それぞれが自分の意見を持っており、接し方がとてもやわらかい人たちばかりでした。プレゼンテーションの準備をする際にも、意見をまとめることの難しさを感じると同時に、一人では思い浮かばないアイデアが生まれ、みんなで生み出す喜びが感じられました。また、自分の将来のビジョンなど、同じ立場に立って語り合えることがとてもうれしかったです。今後も大切な仲間として助け合い、お互い励まし合っていきたいと思います。

研修を通して、同期職員をはじめ多くの方々とお会いし、たくさん話を聞く中で、仕事に対する意欲がより一層高まり、とても意義深い研修生活を送ることができたと思います。今持っている初心を忘れず、四国をもっと安全に、もっと魅力的にしていけるよう少しでも力になればと思います。

最後になりましたが、研修期間中体調を気遣っていただき、快適に受講できるようご配慮いただいた研修係長をはじめ四国技術事務所の皆様、講師の方々に御礼申し上げます。大変お世話になりました。どうもありがとうございました。